

令和7年度 長崎大学教育学部附属小学校 学校だより

「らしき」輝く附属小



第17号 令和7年 9月5日(金) 校長 森内 秀学

主免・基礎免 教育実習開始

9月1日から、主免・基礎免の教育実習が始まりました。この「教員養成」という仕事は、附属学校が担う重要な役割の一つです。今回は、長崎大学の学生はもちろんのこと、他大学で、教員や養護の免許取得を目指している本校の卒業生も実習生として迎え入れ、総勢 105 名でスタートしました(下)。



この9月を中心とした1学期後期のめあては「つなぐ」。

- ① 長期休業明けでも、友達と心をつなぎ、安心して学校に来ることができるように
- ② つぶやきや尋ね合いで言葉をつなぎ、学びが深まるように
- ③ 実習の先生と心をつなぎ、楽しく学べるように

そんな願いが込められています。

その願いを支えるため、ここ1週間は、活動するスペースの草を刈ったり(右)、授業づくりの基本的な考え方が分かるように、各教科の担当が手本を見せたりしています(下)。



私も、33年前に本校で教育実習をさせていただきましたが、その時に子どもたちからもらった手紙やプレゼントは、今でも大事にとってあります。

実習生にとって、子どもたちと過ごすこの1か月は、全てがまさに宝物。その宝物がより輝くよう、本校職員一同、全力を尽くします。

北斗の丘に「星」が咲いています

校長室には、今、北斗の丘から摘んできた「コヨメナ」という花を飾っています。この花の学名は「Aster indicus」。「Aster」はギリシャ語で「星」。摘んだ場所と合わせて考えると「北斗星」になりますから、運命的な花だなあと、一人ほくそ笑んでいます。

野の花も、こうして飾ると、ほっと心を和ませてくれますね。

